

開成校区防災安全マップ

家族の避難場所

避難場所

家族が離ればなれになった時の集合場所

家族の連絡先

氏名	連絡先	備考
	☎	
	☎	
	☎	

佐賀市子ども達の安心と安全を守るために!

佐賀市防災総合システム さがんメール

「さがんメール」は、防災情報、緊急情報や学校情報などを即時にメールでお知らせするサービスです。配信情報は、防災情報、防犯情報、緊急情報、火災情報、学校情報などがあり、小学校区単位から佐賀市全域まで地域も細かく設定できます。

学校情報では、子どもたちの安全に関わる犯罪や災害などの緊急情報に加え、学校からの連絡事項やお知らせ、行事の案内など通知情報も随時配信しますので、是非ご利用ください。

携帯電話のメニューから接続
<https://sbss.jp>

操作方法は、各種携帯電話会社及び機種によって異なります。

QRコードから
携帯電話のカメラでQRコードを読み取ると<https://sbss.jp>へすぐにアクセスできます。



ライフライン

- 九州電力(株) ☎0120-98-6303
- 佐賀市上下水道局 ☎33-1313
- 佐賀ガス(株) ☎30-6161

いざという時の連絡先

- 災害用伝言ダイヤル **171**
- 警察(緊急時) **110**
- 消防(火災・救急・救助) **119**

一時避難所

- 各単位自治会公民館
- ①開成保育園
- ②セブンイレブン鍋島江頭店
- ③杉原医院
- ④大町自動車学校鍋島校
- ⑤マックスバリュ佐賀西店
- ⑥開成5丁目公民館
- ⑦八戸溝公民館
- ⑧八戸溝6号広場
- ⑨県営鍋島団地駐車場
- ⑩ロイヤルシャトー開成
- ⑪アルタ開成店駐車場

大雨時冠水地域

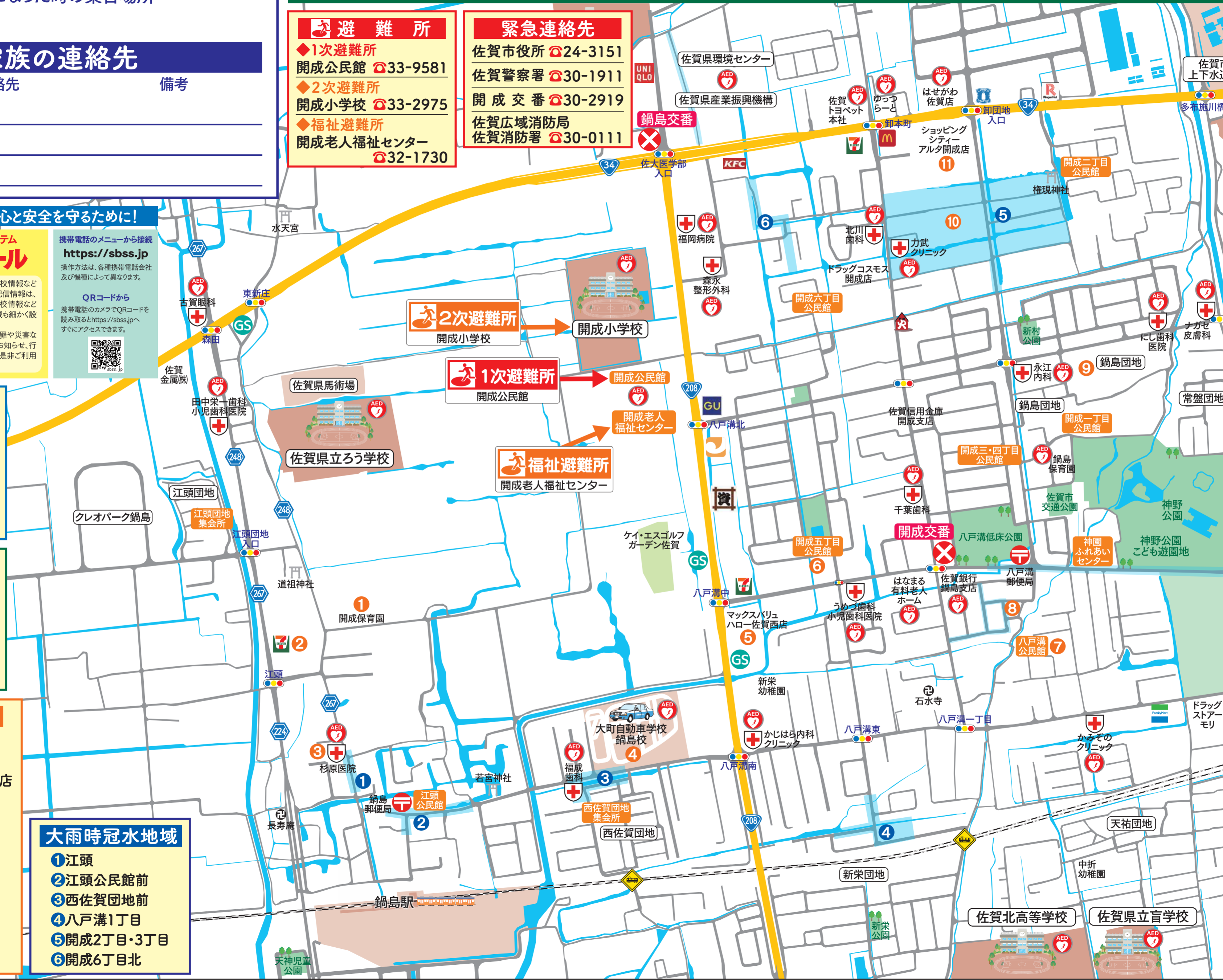
- ①江頭
- ②江頭公民館前
- ③西佐賀団地前
- ④八戸溝1丁目
- ⑤開成2丁目・3丁目
- ⑥開成6丁目北

避難所

- ◆1次避難所
開成公民館 ☎33-9581
- ◆2次避難所
開成小学校 ☎33-2975
- ◆福祉避難所
開成老人福祉センター ☎32-1730

緊急連絡先

- 佐賀市役所 ☎24-3151
- 佐賀警察署 ☎30-1911
- 開成交番 ☎30-2919
- 佐賀広域消防局 ☎30-0111
- 佐賀消防署 ☎30-0111



非常時の持ち出し品

- 救急活動品**
懐中電灯、電池、携帯ラジオ、携帯電話、マッチ、軍手、ヘルメット、帽子、新聞紙、カセットコンロ(燃料)など
- 非常食品**
水(大人一人当たり一日3リットル必要)、保存性のある食品、レトルト食品、缶詰、乾パンなど
- 救急医薬品**
常備薬(解熱剤、目薬、胃腸薬、かぜ薬、包帯、絆創膏)など
- 現金、貴重品**
現金(小銭)、通帳、年金手帳、印鑑、保険証など
- 衣類、衛生用品**
洋服(厚手、薄手)、下着類、石鹸、タオル、ティッシュペーパー、生理用品など

地震発生! そのときどうする?

- 身の安全を守る**
大きな揺れが続くのはせいぜい1分程度、急いでテーブル、机、布団などの下にもぐりましょう。慌てて外に飛び出さない。
- 脱出口を確保する**
ドアや窓が変形して開かなくなる事があるので、揺れの合間をみてドアや窓を開けて、逃げ道を確保しておきましょう。
- 火の始末をする**
揺れが小さい場合は直ちにガスやストーブの火を消し、コンセントを抜きましょう。揺れが大きい時は揺れがおさまってから火の始末をしましょう。
- 危険な時は避難を**
避難指示があった時は急いで避難しましょう。指示がなくても激しい揺れで家具が倒れるなど危険を感じた時や、火災が発生して火が天井まで燃え移った時は直ちに避難してください。
- 情報収集をする**
災害時は誤った情報が流れる事があります。その後の対処を間違わないためにも、ラジオなどで正しい情報を入手するようにしてください。

洪水のときの避難の心得

- 必ずヘルメット(防災ずきん)をかぶる。履き物は長靴より、ひもでしめられる運動靴を。
- 洪水の場合、歩ける深さは男性で約70cm、女性で約50cmまで。水深が腰までであるようなら無理せず高所で救援を待つ。
- はぐれないようにお互いの体をロープで結んで避難する。特に子供から目を離さないように。
- 冠水した場所を歩く時は、長い棒を杖代わりにして水面下の安全を確認しながら歩く。
- お年寄りや病気の人は背負う。子供には浮き袋をつけて安全確保を。

安全に避難するための心得

- 避難する前に、もう一度確かめる(ガスは元栓を締め、ブレーカーも切る)。
- 家には避難先や安否情報を記したメモを残す。
- 各自が防災カードを持ち、荷物は必要最小限にする。
- ヘルメット(防災ずきん)で頭を保護し、長袖・長ズボンなどの安全な服を着用する。
- 車は使わず、必ず徒歩で避難する。
- お年寄りや子供には声をかけ、手をしっかり握る(乳児は背負う)。
- 狭い道、川べり、塀や自動販売機のそば、ガラスや看板の多い場所を避けて避難する。
- できるだけ集団で指定された避難場所へ避難する。